



## 地域活動を通じて

吉田 幸恵 (室蘭支部)

2013年より地元の歴史的建造物を大切に思う市民有志と市民団体を作り、活動している。当初は、室蘭市内に残る歴史的建造物を調査しマップなどを作成し、そのマップを見ながら『まちあるき』を行ってきた。日々の暮らしで見落としがちなモノが『まちあるき』を通じて発見できる。個性的で、作った人住む人使う人の思いが入っている建築ばかりである。この市民活動や『まちあるき』を通じて、たくさんの方とつながりができたのが私の財産になっている。仕事や生活のなかでは決して出会うことが出来なかった人たち。個性的でマニアックな知識をもち、話しが尽きない。趣味らしい趣味もない私にとっては彼らとの語らいが楽しい時間になる。またここ数年は、この活動のほかに『まちづくり』『アートプロジェクト』の活動にも関わっている。まちづくり活動では高校生や大学生の若い子達と『まちあるき』を行っている。最近の若者は『まちづくり』に興味があるらしく、彼らから見た『まち』への視点や意見から若者達の『まち』を思う気持ち伝わり、とても嬉しくなる。昨年行われたアートプロジェクトでは、市内の歴史的建造物の中にアートが期間限定で展示され、通常都会に行かなければ鑑賞出来ない現代アートに出会うことが出来、子供から大人まで知的好奇心を満たすイベントになったと思う。今年は8月10日から14日まで、歴史的建造物の内部に加えて市民美術館内部や空き地にアート作品が現れる予定だ。ぜひ、室蘭にいらしてください。私の団体でも連動企画として室蘭ユースホテル50周年記念の『田上義也を知る講演会』を行う予定だ。最後は宣伝のようになったが、市民活動は楽しいライフワークのひとつである。

## 旭川支部女性委員会 見学会

赤木 希好 (旭川支部)

開催日時：

令和4(2022)年4月20日(水)  
10:00~14:00

見学会東川町「KAGUの家」

参加者12名

久しぶりの見学会が、東川町の隈研吾設計の建物という事で、興味津々で参加しました。

市街地に建つ4つの建築物は少しずつ距離を取って配置され、どれもシンプルな大きな片流れ屋根と木の外装材が特徴的でした。

「KAGUの家」と称するそれらの施設はサテライトオフィスで、月単位の賃貸物件だそうです。

暖炉・旭川家具のソファや大きなテーブルを囲む共有部と、ワークスペースが12席。

1棟に1社、或は1棟に異業種の会社や個人が入るなど、どんな使い方になるのかも興味がわくところです。ITの進化とコロナ禍で働き方が大きく変化したのを感じました。

中に入ると更に「木」が表面を占めており、一般の事務所や住宅とは違って仕上げは躯体の構造用合板そのまま。塗装で着色したり、クロス貼りなどの細工はありません。トイレの建具やキッチンも造作されて、手作り感満載です。既製品の住設機器・造作部材を使うことに慣れてしまっているので、逆に新鮮にも感じられました。解体する時、分別が少なくなくて済むかもしれませんね。

### 【面白かったところ】

- ・耐力壁の一部でもあるワークスペースの机
- ・ネックレスに見えるLEDテープライトの照明
- ・埋め込まないダウンライト
- ・換気口のプラスチックを隠すための合板
- ・床置き冷暖房エアコン

みんなの特に気になるところは「構造」です。筋交いの無い大空間の作り方や断熱について、製本された「設計図書、竣工図」を見て、役場の担当の方にはたくさんの質問にも答えていただきました。時間が許せば、もっとじっくり図面を見ていたかったです。

東川町ではこの後も、隈研吾設計との仕事を計画するそうなので、完成を楽しみにして、次の見学会にも期待したいです。



役場職員から説明を受ける参加者



内部の説明を受ける参加者